

事務事業評価シート

(平成 23 年度実施事業)

事務事業名	シルバーメイト事業			事業コード	0417
所属コード	061500	課等名	地域福祉課	係名	福祉企画係
課長名	沼田 由子	担当者名	工藤 貢	内線番号	2522
評価分類	<input checked="" type="checkbox"/> 一般 <input type="checkbox"/> 公の施設 <input type="checkbox"/> 大規模公共事業 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 内部管理				

1 事務事業の基本情報

(1) 概要

総合計画 体系	施策の柱	いきいきとして安心できる暮らし	コード	1
	施策	高齢社会に適応した高齢者福祉の充実	コード	4
	基本事業	高齢者福祉サービスの充実	コード	2
予算費目名	介護特別会計 3 款 2 項 2 目 (001-01) シルバーメイト事業			
特記事項				
事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度 <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度	開始年度	平成 9 年度	
根拠法令等	なし			

(2) 事務事業の概要

地域における独居高齢者の見守りを行うため、社会福祉協議会に委託して行うもの。

(3) この事務事業を開始したきっかけ（いつ頃どんな経緯で開始されたのか）

平成 8 年度までは「老人連絡員制度」により、1 人の高齢者を特定の 1 人が訪問していたが、県からの指導や、連絡員の負担が大きいこと、独居高齢者数の増加が見込まれることから、当事業に移行することになった。

(4) 事務事業を取り巻く現在の状況はどうか。(3)からどう変化したか。

(議会)

- ・事業の展開にあたって、町内会、民生委員などの関係者と連携を図り事業の課題などを明確にし支援策を講ずること。

(アンケート調査等)

- ・高齢社会においては、市の事業としてではなく、日常の町内会等地域活動の中に位置づけられるようにしたい。
- ・地域のつながりができるきっかけとなる事業で地域に必要なもの。
- ・町内ぐるみで「挨拶運動」や「声かけ運動」として取り組むこととなりよかった。
- ・「自主防災組織」の体制と「災害時要援護者」対応が重要視されている観点からこの事業の充実が必要である。

(県社会福祉協議会)

- ・人によって価値判断が分かれるような生活課題は公的な福祉サービスだけでは対応できない。地域社会の活性化のために行政が仕組みを作っていくことが必要である。

(取り巻く状況、今後の見通し)

- ・地域を構成する各組織（地区福祉推進会、町内会、民生委員など）が一体となり、隣近所を見守る体制が構築されてきた地域もある。
- ・地区の取組みの差が広がってきた。（見守られる、見守る場を提供する取組みをしている地域が出てきた。）
- ・独居高齢者のみでなく、高齢者夫婦や日中一人でいる高齢者が増えており、またその把握も難しい。
- ・見守る側（メイト）の確保が難しく、また高齢化が進んでいる。

2 事務事業の実施状況 (Do)

(1) 対象（誰が、何が対象か）

見守りの必要な独居等高齢者

(2) 対象指標（対象の大きさを示す指標）

指標項目	単位	21年度 実績	22年度 実績	23年度 計画	23年度 実績	26年度 見込み
A 独居高齢者	人	8,766	9,059	9,149	9,432	9,425
B						
C						

(3) 23年度に実施した主な活動・手順

市社会福祉協議会に業務委託し、32の地区福祉推進会がシルバーメイト数人によるチームを編成。シルバーの人数により活動費を設定。おおむね65歳以上の市民を対象に、安否確認や声かけによる見守りを行い、緊急時は関係機関への通報を行う。

(4) 活動指標（事務事業の活動量を示す指標）

指標項目	単位	21年度 実績	22年度 実績	23年度 計画	23年度 実績	26年度 目標値
A シルバーメイト数	人	1,019	971	1,200	956	1,200
B 訪問を受けている高齢者数	人	612	580	650	619	800
C シルバーメイトが安否確認を行った日数	日	58,771	55,680	62,400	56,925	75,200

(5) 意図（対象をどのように変えるのか）

一人暮らし高齢者等が安心して慣れ親しんだ地域で暮らすことができるようにする。

(6) 成果指標（意図の達成度を示す指標）

指標項目	性格	単位	21年度 実績	22年度 実績	23年度 計画	23年度 実績	26年度 目標値
A 訪問を受けている高齢者数／独居高齢者数×100	■上げる □下げる □維持	%	7.0	6.4	7.1	6.5	8.4

B シルバーメイト数／訪問を受けている高齢者数	<input checked="" type="checkbox"/> 上げる <input type="checkbox"/> 下げる <input type="checkbox"/> 維持	人	1.7	1.6	1.8	1.5	1.4
C シルバーメイトが安否確認等を行った日数／訪問を受けている高齢者数	<input checked="" type="checkbox"/> 上げる <input type="checkbox"/> 下げる <input type="checkbox"/> 維持	日	96	94	94	91	94

(7) 事業費

項目	財源内訳	単位	21年度実績	22年度実績	23年度計画	23年度実績
事業費	① 国	千円	0	0	0	0
	② 県	千円	0	0	0	0
	③ 地方債	千円	0	0	0	0
	④ 一般財源	千円	3,406	3,382	3,728	3,366
	⑤ その他()	千円				
	A 小計 ①～⑤	千円	3,406	3,382	3,728	3,366
人件費	⑥ のべ業務時間数	時間	200	200	200	200
	B 職員人件費 ⑥×4,000円	千円	800	800	800	800
計	トータルコスト A+B	千円	4,206	4,182	4,528	4,166
備考						

3 事務事業の評価 (See)

(1) 必要性評価 (評価区分が「内部管理」の事務事業は記入不要)

① 施策体系との整合性

独居高齢者等の宅での緊急時の対応への不安や日常生活での孤独感の解消を目的としており、当該事業を推進することにより、日常生活での安心感が醸成されることから、結びついている。

② 市の関与の妥当性

地域のつながりが希薄になりつつある社会の中で、地域の福祉力の向上と活性化の為の支援及び仕組み作りは行政の役割である。

③ 対象の妥当性

安否の意志伝達が困難な独居等の高齢者を対象としているため、現状で妥当である。

④ 廃止・休止の影響

当該事業は地域の見守り体制を構築することにより、ひとり暮らし高齢者等の日常生活の安心確保を目的としていることから、廃止・休止は高齢者の生活への不安・孤独感が拡大し影響がある。

(2) 有効性評価 (成果の向上余地)

見守り体制の構築を一層推進し、対象者及び見守り者の拡大を図ることにより、成果の向上が期待できる。また、類似事業として、民生委員による友愛訪問、老人クラブによる友愛訪問、緊

急通報システム事業、シルバーサロン事業及び災害時要援護者支援事業による地域支援者の支援等があるが、それら事業の連携、組み合わせにより、重層的、総合的な見守り体制の構築が推進できることから、成果向上が期待できる。

(3) 公平性評価（評価区分が「内部管理」の事務事業は記入不要）

事業は市内全域を対象としているが、地域によって「見守られる人」が極端に少ないことから、適正化のための取り組みが必要である。

(4) 効率性評価

類似事業の連携、組み合わせ、統合により、事業費の削減余地はあるが、人件費については、類似事業との連携等により、現行業務に加え、調整業務等が生じることから、今以上の削減は困難である。

4 事務事業の改革案 (Plan)

(1) 改革改善の方向性

各地区ごとの活動量の違いや、重層的な見守り事業を推進する観点で課題もあるので、引き続き検討を進める。

高齢者を対象とする市の委託事業や補助事業との統合を模索しながら、検討する。

(2) 改革改善に向けて想定される問題点及びその克服方法

補助金にすることで事務量の増加が懸念されることと、地域の諸活動に支障が生じる可能性がある。→地区福祉推進会への委託（補助）となっていることから、他の補助金との統合の検討を進める。

5 課長意見

(1) 今後の方向性

- 現状維持（従来どおりで特に改革改善をしない）
- 改革改善を行う（事業の統廃合・連携を含む）
- 終了・廃止・休止

(2) 全体総括・今後の改革改善の内容

地域における一人暮らし高齢者の重層的な見守り体制構築への取組が必要であることから、当該事業を継続しながら類似事業との統合・連携により総合的な見守り体制の構築を推進する。